

ナゴヤダルマガエルの飼育環境を探る ～みんなで守るために最適な飼育方法とは～

ノートルダム清心学園清心女子高等学校

ナゴヤダルマガエルは、生息場所の改修などにより生息数が激減し、絶滅危惧 **I B**類(環境省)に指定されている。本種の岡山種族は兵庫県加古川から広島県にかけて分布している。岡山県では絶滅危惧 **I** 類に指定され、**2009**年からおかやま大野ダルマガエル保全プロジェクトを中心に県南部で保護活動が行われているが、個体数は減少し続けている。減少要因としては、農地の埋め立て、耕作放棄地の増加、飼料米への変更に伴う水管理の変化、外敵であるサギ類の捕食圧が高まっていることなどが挙げられる。広島県、兵庫県では専門の飼育施設があるが岡山にはなく、一般市民が幼生から幼体まで飼育する里親活動によって、緊急的に個体数を維持する取り組みが**2022**年から行われている。しかし、明確な飼育方法は決まっておらず、飼い主によってはすべての飼育個体が死亡した例がある。昨年、私たちの学校でも里親活動に取り組み、実際に飼育する難しさを経験した。この現状を解決するために、最適な飼育方法を提案することを目的にした。

私は**3**つの条件、個体数密度、水替えの有無、水槽の置き場(野外・室内)を変えて、それぞれのパターンの生存率、個体の成長率などを調べることにした。今年**6**月**7**日に産卵の鳴き声調査に参加し、**6**月**12**日には野外で卵を回収した。これから飼育実験を行うため、発表時には結果を報告したい。また、私たち以外にも**10**組以上の方が里親活動に参加する予定のため、それぞれの飼育条件、水温などの調査を依頼し、さまざまな環境要因から最適な飼育環境を探りたい。

本種の適切な幼生から幼体になるまでの飼育方法のモデルが確立できれば、里親活動によって幼体の放流数が増え、個体数の増加が期待できる。また、一般市民や教育機関などで、より広く里親活動に取り組むことができれば、地域での保全活動の活性化につながると考える。